

続・ふるさと

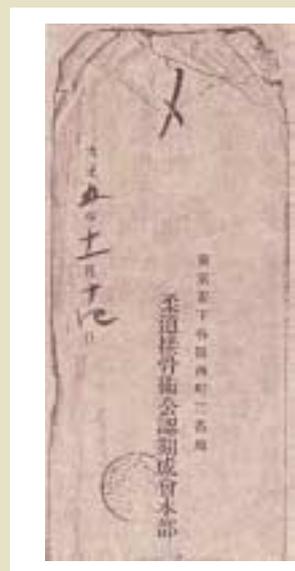
柔道整復師の法制化に

奔走した人④

第20回

新しいドイツ医学を取り入れた医学界は、すさまじい発展を遂げた。明治39年、東京帝国大学に「整形外科講座」が田代義徳博士により開設された。また、ドイツでレントゲンという物理学者が「X線」を発見し医療診断への革命的な進歩が加わった。医学界の発展と裏腹に取り締まりのために廃業する柔道家が多く、死活問題に直面した。

このまま姿を埋しては、先人の苦心研究の文化的遺産を消失させることになり、接骨医療に大きな損失となるばかりでなく、柔道普及奨励にも大いに影響せざるを得なかった。明治18年、同じ取り締まり



▲柔道接骨術公認期成会の所在

まり方中にあつた「入歯歯抜口中療治」の士は、全国に呼びかけ会を組織して団結の力をもって請願し、立法化で学校制度を確立し、専門医としての歯科医師が誕生した。明治44年になつて、鍼灸、按摩も営業を公認され、ひとり接骨術のみが取り残された不運にあい、早晩接骨も公認されなければならぬ時期にあつた。こうした背景のもとに大正元年頃より公認の目的貫徹のため、同志の大同団結を叫び、大正2年、柔道接骨術公認期成会が発足した。これを考え、実行に移した最初の人が萩原七郎であり、本部も本人の自宅であつた。

編集後記

「野火焼き」は、農地の畦や水路の提とうの雑草を焼却し、越冬病虫害の防除と被害の防止を図るための作業。

野火焼き後の畦道にたくさん生えているツクシが、子どもの頃の記憶に残っています。唐代の詩人白居易の詩に「野火焼不盡（やかやけども つぎず）」というものがあつて、これは草は焼いても春になればまた生えてくるということも。1年分の枯れ草をきれいにし、新しい芽吹きを準備をする、害虫駆除のためよりも「芽吹きを準備」の方が響きがいいですね。

(田舎育ちの中年)



Anas:strepera (全長50.0cm) (騒がしいカモ類)

学名に反して淡水ガモ類(水面採餌性)の中では一番地味なカモであると言った方が良いでしょう。雄は頭頂と首が褐色で体は灰褐色でありくちばしと尾羽は黒い。胸は白く細かな鱗状の斑点があり、脇は白く細かな横斑がある。遠方から見ると、他のカモの雄より体全体が褐色でぱっとしないカモに見える。

飛んでる姿を下から見ると、翼の内側の次列風切羽は白く、中間の中雨覆羽は赤褐色で先端の大雨覆羽は黒くとても美しく特徴的である。

太平洋側に飛来する数は少ない。雌は地味な褐色でマガモの雌に似ているが顔全体がやや白く、くちばしは黒く周辺が燈色の部分が多いので識別が付く。餌はイネ科植物の種子や地下茎などを好んで食べる。

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス <http://www.town.haga.tochigi.jp>
- 苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898
- 芳賀町の携帯サイトはコチラから➡

